

スピリチュアル物語

209話 by 魔女ともえ

この『スピリチュアル物語』は、BRIDGE USAさんよりお引越しました

魔女ともえ

ミステリースクールよりイニシエーションを受けた全米初の日本人魔女。チャネリング、白魔術、過去世リーディング、オーラ診断、浄化などを通じて、人々の幸せをサポート。ヘリと小型機のパイロット免許を持つユニーク魔女。

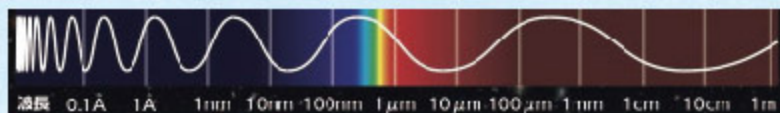
- Skypeセッション 1時間\$80 / 90分\$115
- メール相談 簡易コース\$15 / 通常コース\$40



「確かに目に見えない世界は見えただけに奥が深いよのう」マグワートは顎髭を撫でながらそう言つて、更に続けた。「考えてみれば：量子というミクロの世界に関してはまだまだ謎が多いし、宇宙の果てというマクロの世界も、今のところはつきりとした解明には至っていないし、色や音という波動に於いても、人間が知覚しているものが全てではなく、人間には見えない色や聴こえない音も存在している訳で：何でも解っている積もりで日常生活を送つていてもこの世には人間には認知出来ないこと、依然未知なこと

が数多く存在しているもんじゃのう」「色や音も波動：「マジヨリアルが呟く。「そうじゃ。物そのものに色が付いているのではなく：その物に当たった光の反射を色として認識しているんじゃないよ。よって暗黒の世界には色はない。光がないからじゃ。つまり色は光線とも言え、それ故人間が見える光のことを可視光線という訳じゃ」「可視光線？」「ウイザットお得意のオウム返し。「そうじゃ、色とは電気と磁気のエネルギーが波となつて空間を伝わる電磁波の一種で、同時に粒子(光子)でもあり、それを知覚するのは脳なんじゃよ。ど

ういうことかと言えは：目に入った光を網膜でキャッチし、その光の波長の違いや粒子の多寡を網膜内にある視神経の錐体が感知し、それにより脳が色の種類や濃淡を判別しているということなんじゃ。キャッチした光そのものには色は付いておらず、ヒトの錐体にある赤、緑、青の三色に反応するオプシンというたんぱく質の働きで人間は光の反射を色として認識しているんじゃないよ」



関西学院大学 理工学部

★これまでのお話(1~207話)は魔女ともえのwebで読むことができます。

www.majotomoe.com 4月5日号につづく